



図書館だより

宗岡第二中学校 学校図書館 2019年度 No.1

入学・進級おめでとうございます。

新年度を迎え張り切っている皆さん、新しく出会った友人や先生方とは、本の情報交換をする絶好のチャンスです！ 今まで手に取らなかったようなジャンルの本や、少し読み応えのある本に挑戦して、自分の世界を深く広く開拓してみましょう。そして、1冊でも、「中学時代に読んでよかった！」という本に巡り合えますように。

図書館の本は今年もあなたを待っています！

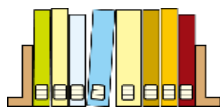
※宗岡第二中学校 図書館利用案内※

開館日 火・水・金曜日

貸し出し時間 昼休み・休み時間

貸し出し冊数 2冊まで

貸し出し期間 2週間



※図書館閉館時の返却は、職員室前の「返却ポスト」へお願いします。
※図書館に置いてほしい本がある人は「リクエスト」してください。
※職員室前及び図書館前の本棚の本は「自由貸し出し」です。手続き不要ですが、読み終わったら必ず元の場所に返して下さい。

「読書への提言」

校長 滝沢 慎

私は国語の教師です。次のような質問をよく受けました。「国語の勉強法は何をやれば、いいのでしょうか。」こんな時、私はこう答えます。「読書をしてください。」

国語とは、日本語としての「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の力をつける教科です。この中には漢字や文法などの知識も入ってきますし、書写としての技能も含まれます。国語の本来の勉強法とは、この四つを高める方法を指すとともに、社会の中で生きて働く「国語の力」を付けるものでなければいけません。

しかしながら、この力を客観的に計るのは、難しいものです。個人が学力を知るために、ペーパーによる問題を解く方法が多く取られています。そのために、ペーパー問題の正解率が、国語の力と思われがちです。これは、ある意味では正しくもありますが、これが全てでは、ありません。冒頭の質問をした人に訊きますと、社会で役立つかと、いわゆる点数を取る力の両方をつけたいという応えが返ってきます。

そこで薦めているのが「読書」です。何事もそうですが、慣れるということが、物事の習得には重要な役割を果たします。国語が苦手だという人は、長めの文章を読むことに普段から慣れていない傾向にあるのを多々感じます。読書は、新たな知識を得たり、想像力を高めることにより、日常生活や心を豊かにするという作用の他に、「言葉に敏感なる」という利点も併せ持っています。

骨董の目利きになるためには、よい物を、まず一流品を見続けなければだめだといえます。二流品を見ては眼がだめになる。文章もそれと同じです。よいと思われるもの、心をひくものを見馴れているうちに、ああ、これは雑だとか、ここはおかしいとか気づくようになる。自分をひきつけるものを熟読して、それをいっそう鋭く受け取るようにすること。次に、よい文章といわれるものを読んで、どこが違うか、どちらがよいかを自分の目で判断すること。

大野晋著『日本語練習帳』

これが、ペーパー問題において、設問が何を訊いているのか、どう読めば答えを見つけられるのか、正しく「分かる」ことにつながります。長い小説を読むことだけが読書ではありません。調べ物をするため、文献の一部分を参照する、新聞記事を読む等のことも読書活動と言えます。

お気に入りの場所で、心静かに読書を楽しむ。これによって国語の力もつくとは、なんとすばらしいことではありませんか。

